心豊かでたくましく 共に生きる子ども

# ひらかた

10月号

令和７年９月３０日
上尾市立平方小学校
校長　大野　和孝

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ 上尾市 平方小学校 検索 QR ｺｰﾄﾞ

## ～スポーツの秋～

校長　大野　和孝

朝夕に吹く風から少しずつ秋が感じられるようになってきました。暑さでなかなか運動できなかった頃に比べ、休み時間に外で遊ぶ子たちの数も日に日に増えてきています。これからさらに秋らしく過ごしやすい季節となり、心地よく運動できるようになることでしょう。体育においては、９月は体育館の授業が多かったですが、１０月からは徐々に校庭で存分に体を動かす運動に移行していきます。

さて、１９６４年１０月１０日、東京オリンピックの開会式が行われ、これを記念し１９６６年、国民の祝日に関する法律に基づき１０月１０日「体育の日」が長く国民に親しまれてきました。その「体育の日」を「スポーツの日」とした背景には、東京オリンピック・パラリンピック開催を契機として、広く世界で使われている「スポーツ」を用い、より自主的・自発的に体を動かそうという思いが込められているのでしょう。

しかしながら、子供たちの運動離れや体力低下は、学校教育の課題の一つであり、実態として運動やスポーツが得意な子と苦手な子、運動をする子とそうでない子の二極化傾向が見られます。また、運動をする子であっても、特定のスポーツのみに興味・関心が高い子もいます。これらの要因は様々ですが、以前から指摘されていることとして、子供を取り巻く環境の変化、とりわけ「時間」「空間」「仲間」の三つの「間」の減少が挙げられます。昨今、デジタルデバイスの急速な普及や、夏の危険な暑さ等も三つの「間」の減少に拍車をかけていると考えます。

一方で、今まであまりよく知られていなかったスポーツに世間の関心が高まる機会は増えています。様々なスポーツでの選手の活躍だけでなく、地域に根差したプロスポーツチームの存在等も大きい気がします。上尾市では、教育委員会と上尾メディックスが連携し、様々な事業を行っています。中学生にはバレー教室の開催、小学生にはエスコートキッズの参加等があります。選手とのふれあいもスポーツへの関心を高める絶好の機会です。

子供たちには、私のように健康診断を控え、必要に迫られ体を動かすようなことはありません。そのため、本来、子供が有している運動遊びに夢中になる力を引き出したり、仲間と一緒に動く喜びを味わわせたりすることが重要であると考えます。体育では、運動技能を高めることも一つの目標ですが、「観ること」「支えること」「知ること」でスポーツに親しむ子供を育成することも大切な目標です。魅力的な授業、体育的行事となるよう今後も努めてまいります。

金木犀のかおる秋、除草された美しい校庭で、体を動かす爽快感や心地よさを味わってほしいと思っています。

## ～除草作業　ありがとうございました～

９月６日（土）、１００名近くの地域、保護者、児童、施設開放団体の方々にご参加いただき、校庭の除草作業を行いました。きれいに整った環境にしていただき、心より感謝申し上げます。本日、子供たちには校長講話の中で、除草作業の様子について話をしました。地域や学校、子供たちのために動いてくださる方々が大勢いること、感謝の気持ちをもつこと、感謝の気持ちはもつだけでなく行動にあらわすことなどを伝えました。多くの方にお力添えをいただき、校長として大変心強く感じております。ありがとうございました。